

本校では平成21年度、「学力の向上」「豊かな人間性の育成」「まちぐるみによる教育の推進」「体力の向上」の各領域においてそれぞれ努力目標を掲げ、日々の教育実践に取り組んできました。本年度もその成果をできるだけ客観的にとらえるため、生徒、教員、保護者及び学校協力者会議の方々にアンケート調査を行ってきました。それらをもとに目標の達成度、成果と課題をまとめましたので報告いたします。

目的を達成できた (-0-)
 目的をほぼ達成できた (^-^)
 目的を十分達成できなかった (-.-)
 目的を達成できなかった (>-<)

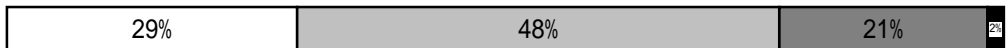
学力の向上

教職員の活発な交流により指導力を高める。

評価	具体的方策	全体・学年・グループ研修や校外研修を全職員に還元し、学校教育目標の具現化を図る。
(^-^)	分析 改善点	取り組みによる成果が、個々の教員の内面に自分のものとして充分には蓄積されていない状況ではあるが、校内の研修体制は定着してきた。 今後も、教科枠を超えた教員間の授業交流を継続的に行いながら、生徒をどう見取りどう返すか、あるいはどうつなぐかなどを意欲的に協議し、授業力の更なる向上に努めていく。

校内研修・授業交流に意欲的に取り組んでいる。(教員・年間平均)

よく
 やや
 あまり
 まったく



表現力の向上を通し、学びを追求する生徒の育成を図る。

評価	具体的方策	相手を意識した表現の仕方やその場の設定や工夫を通して、活用・探究型の授業改善を行う。
(-0-)	分析 改善点	個々の教員が、各教科の「表現力」とは何かを明確にした上で授業改善に取り組んでいく。 教員は、「学びを追求する生徒を育成する」ための指導力・授業力をさらに高める。生徒を「見取る」視点を共有することで教員の独りよがりの授業にならない工夫をし、「もっと学んでみたい」という生徒の学習意欲を喚起する。

活用・探究型の授業改善に向けて、表現力向上の工夫をしている(教員・年間平均)

よく
 やや
 あまり
 まったく



生徒が自ら学び追求する学習集団を育てる。

評価	具体的方策	自主学習(宿題等を含む)を1, 2, 3年で1, 1, 2時間を達成させる。
(^-^)	分析 改善点	習熟度に応じて何種類かの課題を出して選択させるなど、課題の出し方を工夫した。また放課後に補習を行い指導するなどして、課題に対する重要性を意識させた。教科担任が課題をただ出すだけでなく、学級担任との連携や、生徒が家庭学習の効果を実感できるよりきめ細かい指導が必要である。 肯定的評価による意識の向上を図り、学年・学級集団づくりと連携した学習指導を行う。

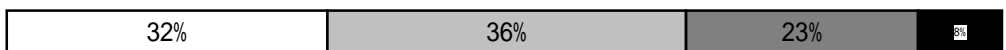
自主学習を1・2年は1日1時間、3年は1日2時間意識して学習している(生徒・年間平均)

よく
 やや
 あまり
 まったく



自主学習を1・2年は1日1時間、3年は1日2時間が達成できている(生徒・年間平均)

よく
 やや
 あまり
 まったく



評価	具体的方策	授業規律の確立により一人ひとりの学びを向上させるための学習集団を育成する。
(^-^)	分析 改善点	私語については、授業に関係のない「本当の私語」もあるが、授業に関わる発言やつぶやきも多くある。しかし生徒は誰も一言も発しない状況を私語のない授業と捉えているようである。私語とは何で、何がいけないことなのかを生徒に伝え、よい発言や

つぶやきには肯定的評価をすることも、「本当の私語」を指導していくのと同様に必要であると考える。

授業規律について、共通の最低限のルールを設定し、生徒と教員が意識を共有し、取り組んでいく。

学年生徒会等を活用し、生徒の自主的な動きにつなげていく。

暮会での振り返りで、意識を高める。学級指導だけでなく、学年や学校全体でも指導し意識を高める。

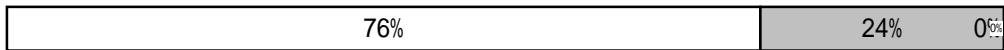
自分のクラスは私語をすることなく授業を受けている(生徒・12月)

よく やや あまり まったく



授業では授業規律(着ベル、挨拶、私語等)の指導をしている。(教員・12月)

よく やや あまり まったく



豊かな人間性の育成

教員間の交流、研修を通して道徳授業展開の技量向上を図る。

評価 具体的方策

(^-^)

・2ヶ月に一度、道徳の学年研修会を持つ。
・VTRでの授業観察や交流などから、改善への情報を共有し心的内化への手だてを練る。

分析
改善点

道徳の時間だけではなく各教科等においても道徳教育を充実させていくことと、生徒が「考える」ことのできる授業を追求する授業交流を行っていく。
中心発問や導入・展開を考えることで授業改善につなげていきたい。また、生徒が自分自身の変容を自覚できたことがわかる自己評価＝「表現」の工夫を提案していきたい。

道徳の時間には自分の考えを深めることができている(生徒・年間平均)

よく やや あまり まったく



体験学習や行事に対して意欲的に取り組ませ充実感を味わわせる。

評価 具体的方策

(~o~)

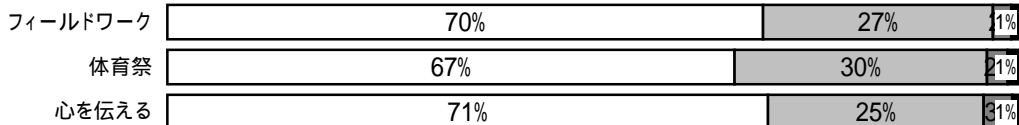
目的と見通しをもたせるなど意欲を喚起し、生徒と生徒あるいは生徒と教師の人格形成を意識した共感的かわりをもたせる。

分析
改善点

マナーにならないために形だけを追うことなく、行事の意義を教員と生徒で共有し、取り組む必要がある。また時間確保が難しいという課題があり、実施時期の検討も必要である。
課題はそれぞれの行事として終わらせるのではなく、年間を通してつきたい力を明確にすることである。生徒の発達段階を意識した人格形成や集団づくりに生かせるような工夫をしていきたい。

体験学習や行事に意欲的に取り組んだ(生徒)

よく やや あまり まったく



生徒、教師の美化意識および相手を尊重する意識の啓発(掃除・挨拶・敬語など)を毎日の具体的活動場で徹底する。

評価 具体的方策

(^-^)

掃除の週目標の徹底と掃除の仕方の定期的な診断を行うことで美化意識を高める。教職員の肯定的回答に対して生徒のそれが低いのは、教職員のアドバイスなどが生徒には充分浸透していないものだと考えられる。

分析
改善点

暮会のプログラムの中に、週目標に対する自分たちの評価を入れるなどすることで、生徒の清掃に対する意識をもっと高めていけるはずである。

清掃では自ら進んで学校を美しくするように取り組んでいる(生徒・年間平均)

よく やや あまり まったく



27%	46%	22%	3%
-----	-----	-----	----

清掃時には担当場所に行き、指導、助言、評価をしている(教員・年間平均)

よく やや あまり まったく

33%	52%	15%	1%
-----	-----	-----	----

評価

具体的方策

TPOに応じた挨拶の仕方や敬語の使い方を身につけ、人間関係の定着向上を目指す。

(-0-)

分析
改善点

生徒の意識と実態にギャップがあり、挨拶がまだまだ不十分であることに気づいていないことが問題である。教職員の指導も徹底していないと考えられる。教職員が声をかけたら挨拶を返したり、部活動の中では、ある程度できていることから考えて、教育活動を通じて人間関係が深まる中で、挨拶が習慣化し定着するという実態がある。家庭との連携やマナー講座などの具体的指導も模索していきたい。

TPO(時と場所と目的)に応じて挨拶と敬語を使っている(生徒・年間平均)

よく やや あまり まったく

54%	34%	9%	2%
-----	-----	----	----

体力の向上

自らの体力を知り、その向上への課題意識をもって自分にあったトレーニングを実践する力を養う。

評価

具体的方策

体力測定をもとに、いろいろな体力を高めるトレーニング法を知るとともに自分のトレーニングメニューを考え、実践させる。

(--)

分析
改善点

3年生は、部活動の中で実施していた生徒が部活の引退によって実施しなくなったものと考えられるが、日々の生活の中での取組になれば一層良い。夏休みだけでなく冬休みにも取り組みができるようにする。体育委員会で体力作りについてのキャンペーンなどを実施する。生活に密着した内容で無理なく取り組めることを考えさせる。

自ら設定した「体力向上トレーニング」を実践している(生徒・年間平均)

よく やや あまり まったく

24%	34%	26%	17%
-----	-----	-----	-----

まちぐるみによる教育の推進

ゲストティーチャーを活用して授業を充実させる。

評価

具体的方策

必修教科、選択教科、体験学習、総合学習、道徳などにおいて積極的に地域人材に協力を依頼する。

(-0-)

分析
改善点

「FW in江田島」(1年) 「FW in九州」(2年) 「FW in九州」(3年)
「被爆体験を聞く」(1年) 「被爆体験を聞く」(2年)
「平和集会 = 演劇鑑賞 = 」(全学年) 「生き方学習 = 卒業生のお話を聞く = 」(3年)
「非行防止教室」(全学年)
「国際理解 = JICAから招いて話を聞く = 」(3年生)
など、地域人材に協力を要請し、実施した。

毎月一回学校を公開し、意見等を吸い上げ、学校運営に活かす。

評価

分析
改善点

学校に対する意見には必要に応じて、早めに学校だより等で返す。学校便りやホームページを毎月発行や更新を行う中で、情報を発信してきた。また生徒指導部から発行される通信などが複合的に機能して、肯定的な評価につながったと考えられる。来年度についても学校公開、懇談会、通信、ホームページなど地域の学校としての情報発信や素早い対応を意識した組織運営を行う。

* ご意見、ご要望をお寄せください。

安佐中学校ホームページアドレス <http://www.asa-j.edu.city.hiroshima.jp> 電話 877 - 0111